

東久留米市立第六小学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>①事実と感想、意見との区別を明確にして、自分の考えを書く。 ②根拠や結果、判断理由を基に自分の考えを書く。 ③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。 ④自分の考えが伝わるよう、必要な情報を取り出して書く。 ◇平仮名や片仮名の定着に個人差があり、自分の考えを文章に表現することに課題が見られる児童が25%いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視写などを通して、漢字、ひらがな、かたかななどの正しい表記を身に付ける。80字程度の作文が書ける。(80%以上の児童) ・ことばときこえの教室の教員と連携を図り、読み書きのつまづきを早期に発見し、促音、拗音、長音の定着度を測り理解度に応じた指導を行う。(各学期で定着度を測る)
算数	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>②根拠や結果、判断理由を基に自分の考えを書く。 ◇全国学力・学習状況調査(算数)学力調査から「変化と関係〔正答率62.8%〕、データの活用〔正答率63.9%〕」 ◇東京ベーシックドリルから学習の定着率(正答率)の二極化⇒基礎的なたし算やひき算の定着に個人差が見られる。 ◇文章題で正しく立式することに課題が見られる児童が15%いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物、半具体物を操作する活動や視覚的に捉えることができる教材などを多く取り入れて数量感覚を養う。図を描いて考える機会を多く取り入れる。 ・正しく立式するための根拠となるキーワードや数字を見付け、サイドラインを引く等の手だてをとる。 →2学期からのテストで数量関係や立式の理解を見取る。(目標値:正答率80%以上) ・計算カードを有効に活用することにより、定着を図る。
生活	<p>◇全国学力・学習状況調査(算数)学力調査から「変化と関係〔正答率62.8%〕、データの活用〔正答率63.9%〕」 ◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。 ④自分の考えが伝わるよう、必要な情報を取り出して書く ◇生活体験の差が大きく、季節の感じ方、活動に対して、半数の児童が意欲的である一方、意欲が見られない児童も数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの観察する視点を広げたくさん表現できるようにし、気付きや思考を見取り、考えを深めることができるように指導を行う。 →観察カードやワークシートなどに、気付きや感じたことを表現できる。(目標値:80%以上の児童) ・春、夏、秋、冬の各季節ごとに地域とつながる体験活動を行い、人や物と積極的に関わることができるよう、計画的に進める。 ・日常的に自然と触れ合う活動を重視し、タブレット端末を活用し、写真を撮って観察したり比較したりまとめたりできるようにする。
特別の教科	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。 ◇発達段階上、自分自身を客観視して考えることが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーサート等、教材提示の仕方をさらに工夫し、児童が主体的に教材に取り組めるようにし、自分事として捉え自分の考えを書ける時間を設ける。 ・少人数による意見交流の場を設ける等、対話的な学びができるようにする。 ・役割演技や考える時間の確保、友達の意見を参考にできるような板書の工夫をする。 →ワークシートに自分の考えを書くことができるようにする。(目標値:90%以上の児童)また、自らの意見を発表できる。(目標値:50%程度の児童)